

X線撮影装置を更新しました。

◎どこの装置が更新されたのか？

今回更新したのは、一般撮影装置(いわゆるレントゲン写真撮影)「56～58番撮影室」と
X線TV装置(胃や大腸のバリウム検査等)「52～53番撮影室」です。

◎装置の特徴は？

FPD(Flat Panel Detector)システムを採用しました。

従来のCR(Computed Radiography)システムは、

X線をイメージングプレートに照射 → イメージングプレートをレーザー光で読み取る
というものでしたが、

FPD(Flat Panel Detector)システムは、

フラットパネルに照射したX線を直接電気信号に変換することが出来るため、

画像処理速度が向上し**検査時間を短縮**

高い解像度により**画質を向上**

高いX線感度により**被ばくを低減**

することができます。

更新した装置の性能を十分に活かし、より質の高いX線診断画像の提供に努めてまいります。



※一般撮影装置



※X線TV装置機器



※X線TV装置でされた映像

今月の医療 ～こんな治療・検査をご存じですか

【最近の網膜静脈閉塞症の治療について — 眼科 —】

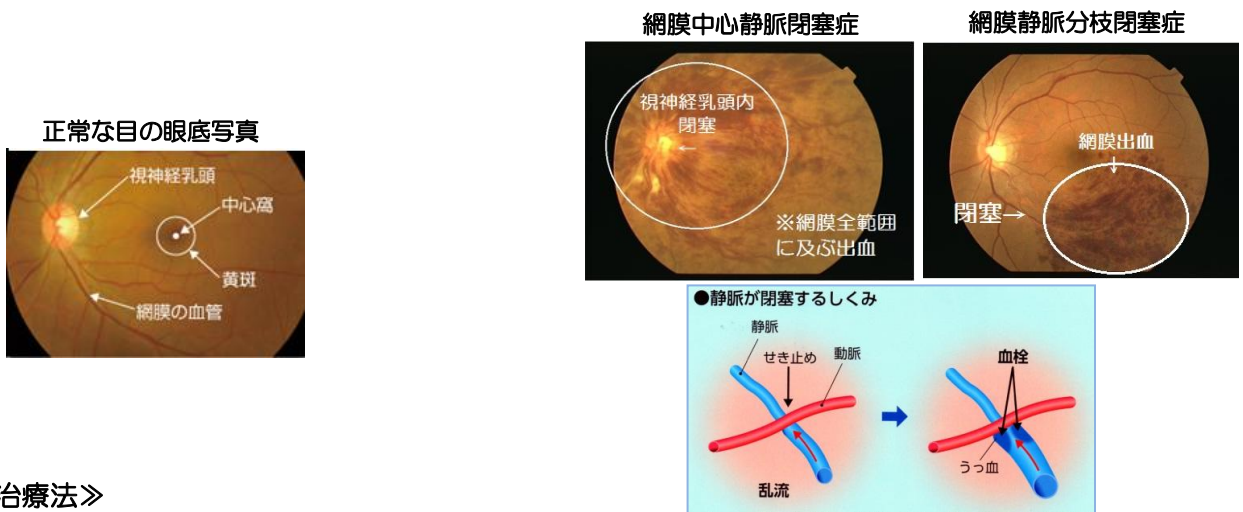
《症状の種類と内容》

網膜静脈閉塞症は、全身の高血圧症や動脈硬化症に伴って動脈硬化の進行した網膜動脈に、薄い網膜静脈壁が圧迫されて狭窄、血液の循環障害を起こし、網膜出血や浮腫を起こす病気です。

閉塞する部位によって**網膜中心静脈閉塞症**と**網膜静脈分枝閉塞症**があります。

網膜中心静脈閉塞症は、視神経乳頭内で閉塞するため網膜全範囲に及ぶ網膜出血と黄斑浮腫を生じ、著しい視力低下とともに放置すると新生血管緑内障を併発し失明することもあります。

一方、網膜静脈分枝閉塞症は部分的な閉塞ですので、網膜出血も限局した部位となりますが、視力の中心である黄斑に出血が及んだり、浮腫が生じると視力低下や歪みが生じます。



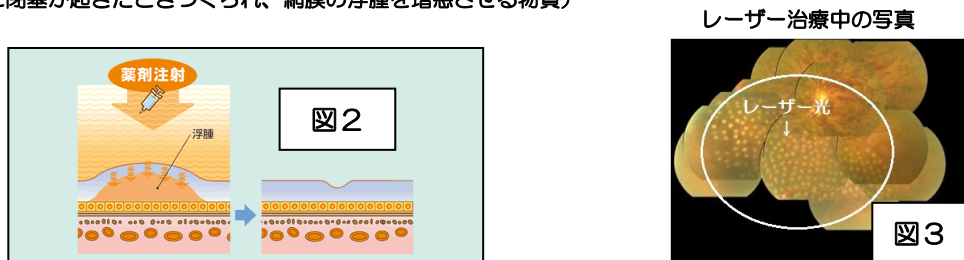
《新しい治療法》

今までは出血部位にレーザー治療を施行し、黄斑浮腫に対してはステロイドの局所投与、難治例には硝子体手術などが施行されてきました。

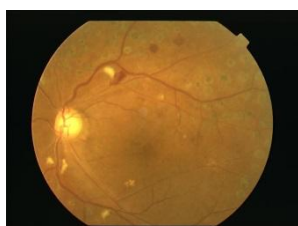
この8月に、今まで加齢性黄斑変性症のみに適応があった VEGF 阻害薬(血管内皮増殖因子)が、本疾患にも保険適応となりました。この薬剤を硝子体内に注射する(図2)ことによって速やかに浮腫が軽減することが期待されます。ただし薬効が短く、中心静脈閉塞症では少なくとも月一回半年間計6回、分枝閉塞でも3か月間3回の注射が必要とされています。その間必要に応じてレーザー治療を行います。そして、黄斑浮腫の状況は視力検査や眼底検査、OCT(光干渉断層計)を用いて経過観察します。

治療費は高額ですが、新鮮な症例には効果が高く、第一選択となる治療として当院でも行っています。

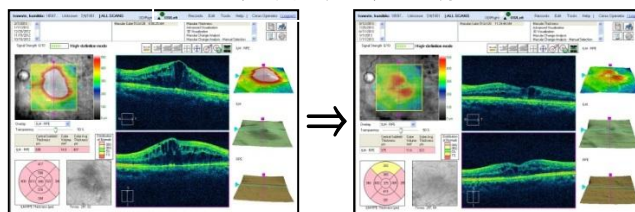
(VEGF→静脈内に閉塞が起きたときつくれ、網膜の浮腫を増悪させる物質)



レーザーと硝子体内注射後



OCT(光干渉断層計)の画像



黄斑部の浮腫が改善している(左治療前⇒右治療後)

眼科部長： 百野 伊恵

☆当院は紹介制の医療機関のため、まずかかりつけ医にご相談いただくようお願いいたします。